

# 2010年3月期 決算説明会

---

SBIネットシステムズ株式会社（東証マザーズ:2355）

2010年 5月 26日

1. SBIネットシステムズについて
2. 2010年3月期 業績概要
3. 2011年3月期 業績予想
4. 2011年3月期の取り組みについて

# 1. SBIネットシステムズについて

---

# 沿革

- 1997年 ● インターネット事業を行う会社としてストリーム株式会社を設立
- 1998年 ● 商号をデジタルティーブイネット株式会社に変更
- 2001年 ● 商号を株式会社 シーフォーテクノロジーに変更
- 2003年 ● 東証マザーズへ上場
- 2004年 ● 株式会社エム研と合併
- 2005年 ● SBIホールディングス株式会社と戦略的業務提携の推進に基本合意
- 2006年 ● 子会社の株式会社 シーフォー ビジネスコンサルティング(現:株式会社SBIテクノロジー)を設立  
株式会社 コアサイエンス(現:株式会社 シーフォー ビジネスインテグレーション)を株式交換により子会社化
- 2008年 ● SBIホールディングス株式会社が当社株式の過半数を取得  
トレードウィン株式会社(現:SBIトレードウィンテック株式会社)及びSBIテック株式会社を株式譲渡により完全子会社化  
商号をSBIネットシステムズ株式会社に変更  
SBIホールディングス株式会社、株式会社SBI証券、ウルシステムズ株式会社、株式会社アイアイジェイテクノロジー(現:株式会社インターネットイニシアティブ)を割当先とする第三者割当増資を実施
- 2009年 ● トレードウィン株式会社(現:SBIトレードウィンテック株式会社)及びSBIテック株式会社の合併  
SBIシステムズ株式会社からシステム開発事業を吸収分割により譲受  
本社を市ヶ谷住友ビルに移転

# グループ各社 会社概要



**SBIネットシステムズ(株)**

主な事業 : 株式等の保有を通じたグループ会社の統括・運営、システムの受託開発等

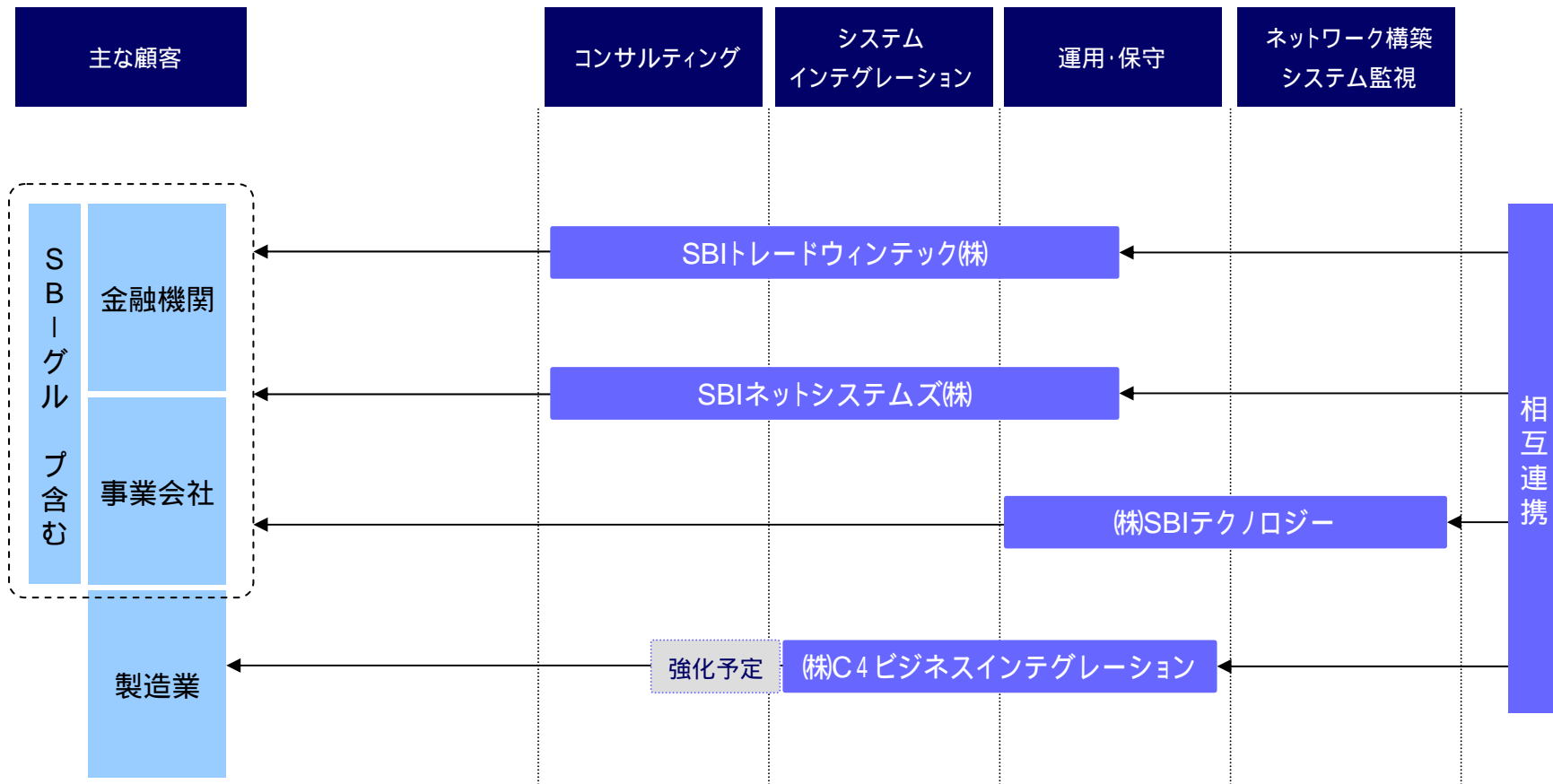
資本金 : 3,811,426 千円 従業員数 : 42 名(2010年3月末時点)

代表取締役 : 会長 澤田 安太郎 社長 内山 昌秋



→ 資本関係

SBIネットシステムズグループは、「情報セキュリティのトータルソリューションプロバイダー」からコンサルティングから運用・保守までを提供する「トータルソリューションプロバイダー」へ



## グループ各社(SBIトレードウィンテック) プロダクト



導入実績： 22社

証券バックオフィスシステムFLAKEは、バックオフィス業務の大幅な効率化・低コスト化を実現します。

- 製品特徴
  - ✓ 証券バックオフィス事務に必要な機能を実装
  - ✓ 大規模から小規模ユーザーまで柔軟に対応できるシステム構成
  - ✓ 将来のT+1化(取引日翌日決済)にも対応したリアルタイムトランザクション処理



導入実績： 16社

外国為替オンライン取引システムをWeb取引サービスとしてご提供します。

- 製品特徴
  - ✓ 運用安定性と高い耐障害性
  - ✓ 先進の機能性

### リッチクライアント

導入実績： 3社

証券取引システムをWeb取引とは違うアプリケーションシステムとしてご提供します。



導入実績： 5社

COMETは、インターネットや携帯電話を利用した取引実行・照会に加え、コールセンターや営業店の情報ターミナルとしてご利用頂ける、マルチチャネル対応製品です。

- 製品特徴
  - ✓ リアルタイムポジション反映・複数商品間でのリアルタイム売買余力管理
  - ✓ 外部システム(情報ベンダー、バックシステム)との連携を容易に実現



導入実績： 7社

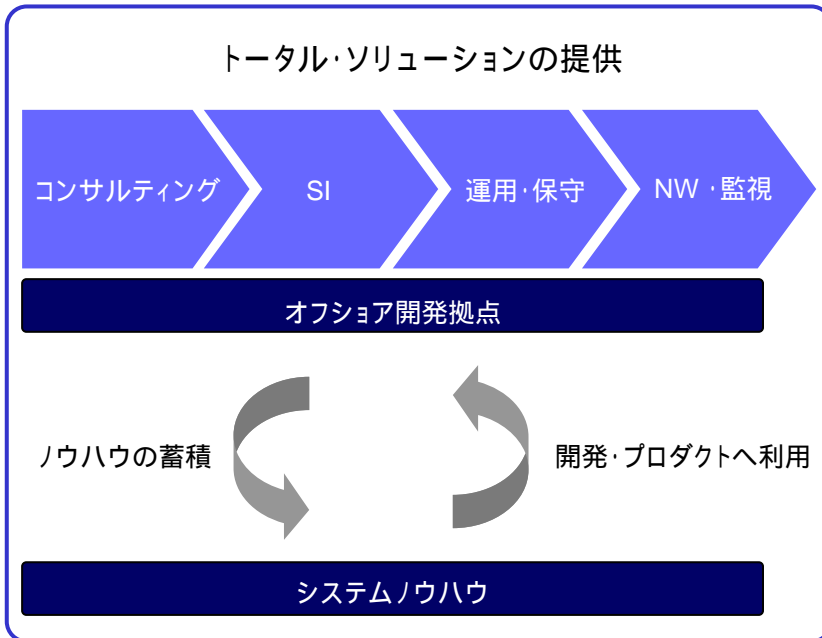
日経225オンライン取引システムをWeb取引サービスとしてご提供します。

- 製品特徴
  - ✓ 投資効率の高い証拠金計算エンジン
  - ✓ PC向けブラウザ画面(IE対応)、携帯向けブラウザ画面(docomo、au、softbank対応)

# SBIグループとのシナジー効果

SBIネットシステムズグループは、オフショア開発やシステムノウハウを活用し、低コストかつ短いリードタイムでシステム・ソリューションを提供し、SBIグループのシステム内製化を目指します。

SBIネットシステムズグループ



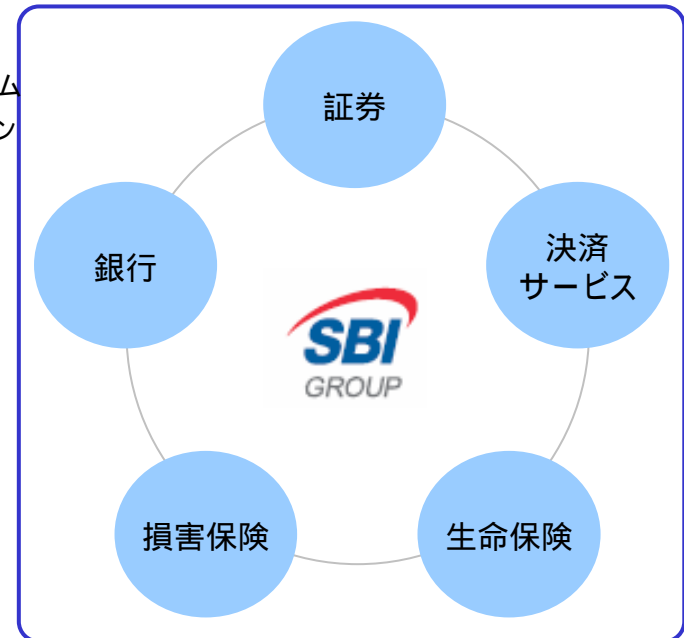
低コスト・短いリードタイム  
のシステムソリューション



業務ノウハウの蓄積



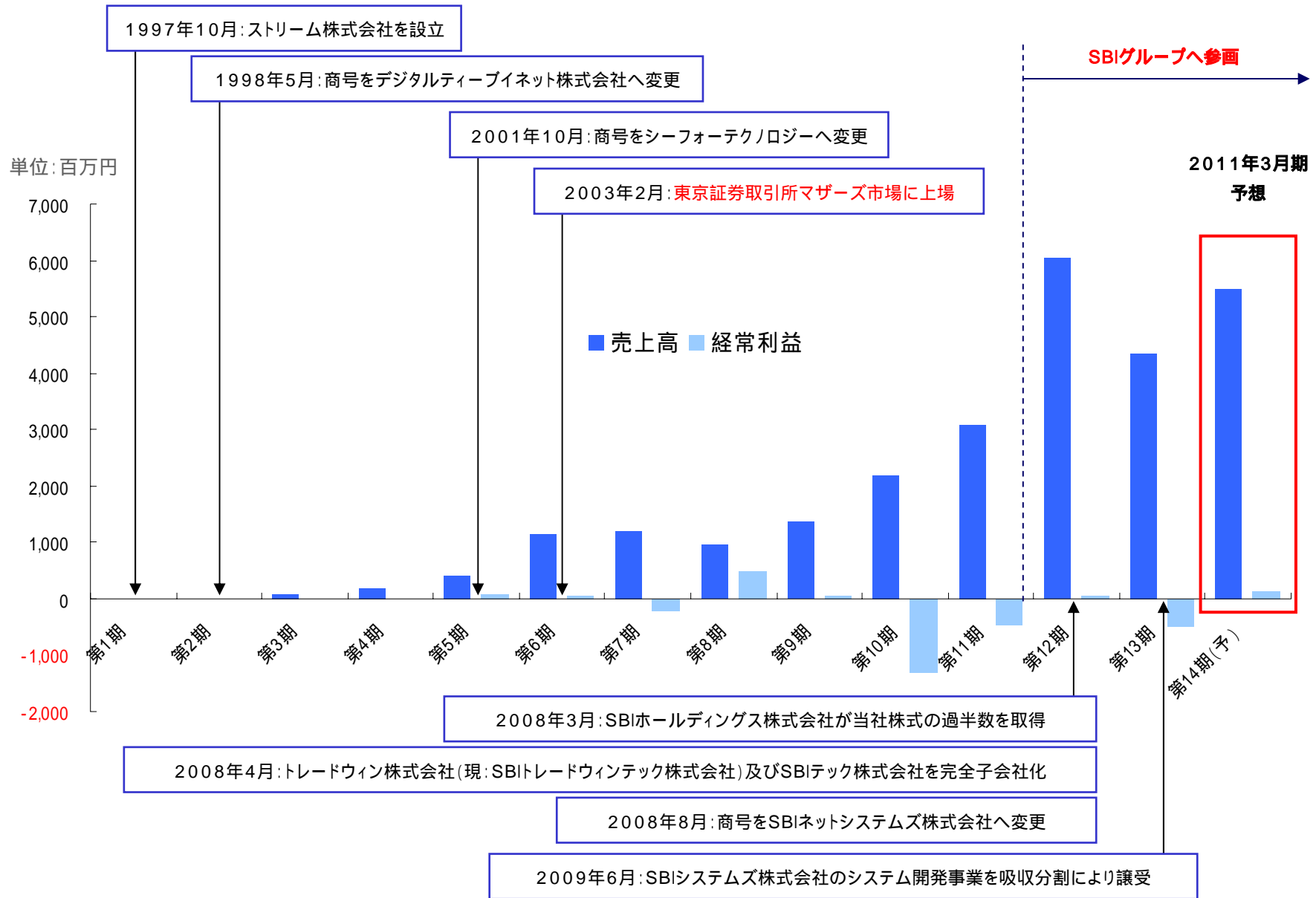
SBIグループ 金融生態系



## 2. 2010年3月期 業績概要

---

# 業績推移



## 2010年3月期 決算実績 (連結)



単位:百万円	2009年3月期実績		2010年3月期実績		増減	前期比
売上高	6,055		4,347		1,707	( 28.2%)
売上総利益 (率)	1,195	(19.7%)	477	(10.9%)	717	( 60.0%)
販管費	1,152		911		240	( 20.8%)
営業利益 (率)	42	(0.7%)	433	( - )	476	( - )
経常利益 (率)	47	(0.7%)	497	( - )	544	( - )
当期純利益 <sub>[税前]</sub>	131	( - )	842	( - )	710	( - )
当期純利益 <sub>[税後]</sub>	327	( - )	873	( - )	545	( - )

## 2010年3月期 決算実績 (個別)



単位:百万円	2009年3月期実績		2010年3月期実績		増減	前期比
売上高	376		548		171	(45.7%)
売上総利益(率)	21	(5.6%)	95	(17.3%)	73	(352.3%)
販管費	338		286		51	(15.3%)
営業利益(率)	317	(-)	191	(-)	125	(-)
経常利益(率)	314	(-)	188	(-)	126	(-)
当期純利益 <sub>[税前]</sub>	403	(-)	288	(-)	114	(-)
当期純利益 <sub>[税後]</sub>	404	(-)	289	(-)	114	(-)

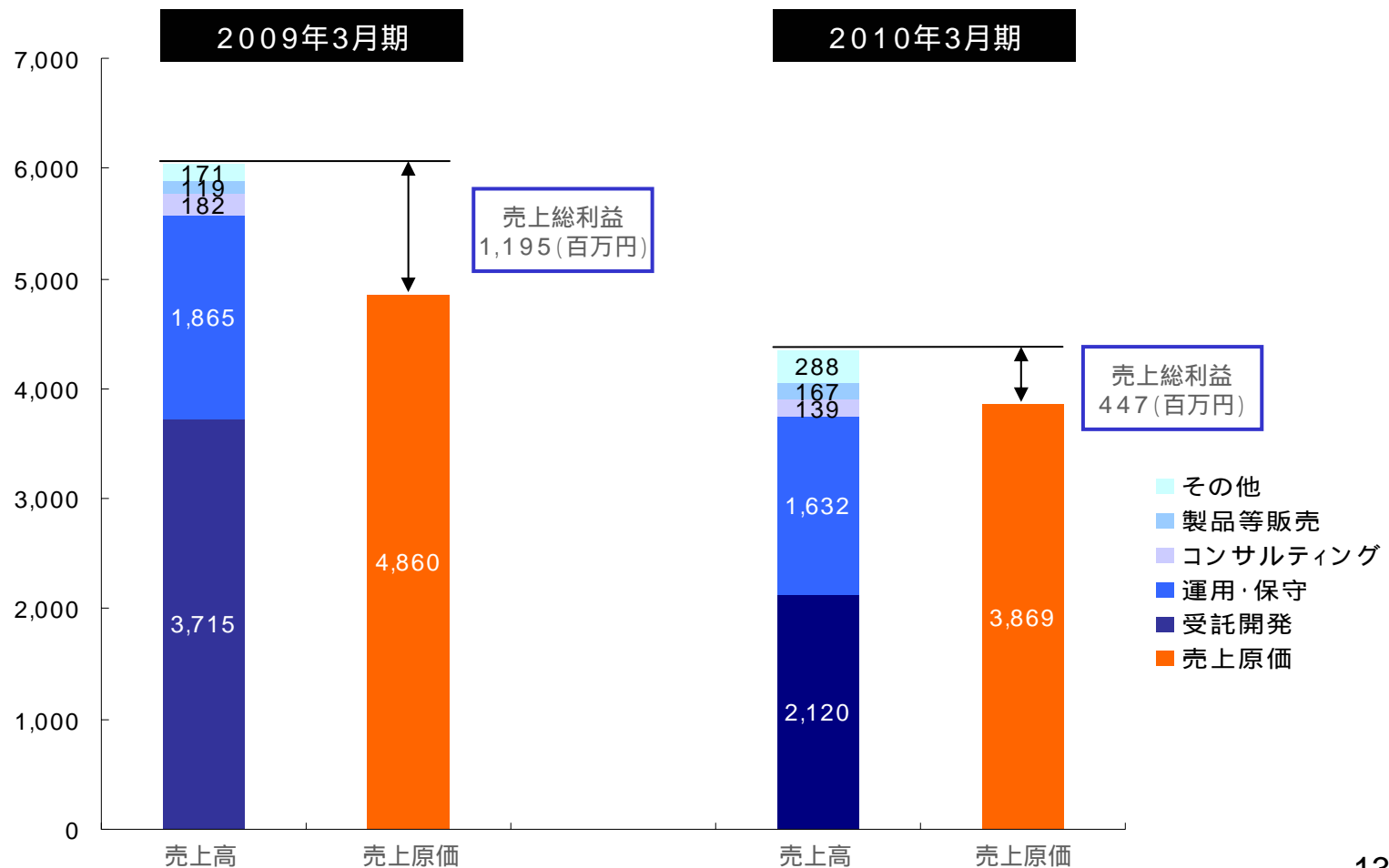
## 売上高・売上総利益（連結）

売上高 : 受託開発の大幅な減少による低下（前期比： 28.2%）

売上原価 : 受託開発の大幅な減少に対応する低下（前期比： 20.3%）

売上総利益 : 金融機関のコスト削減による利益率の高い運用・保守案件の利益率の低下（前期比 60.0%）

単位:百万円



# 販売費および一般管理費・営業利益（連結）



**販管費**：事業の選択と集中(研究開発費の抑制)、グループの拠点集約、管理部門統合等の施策実施

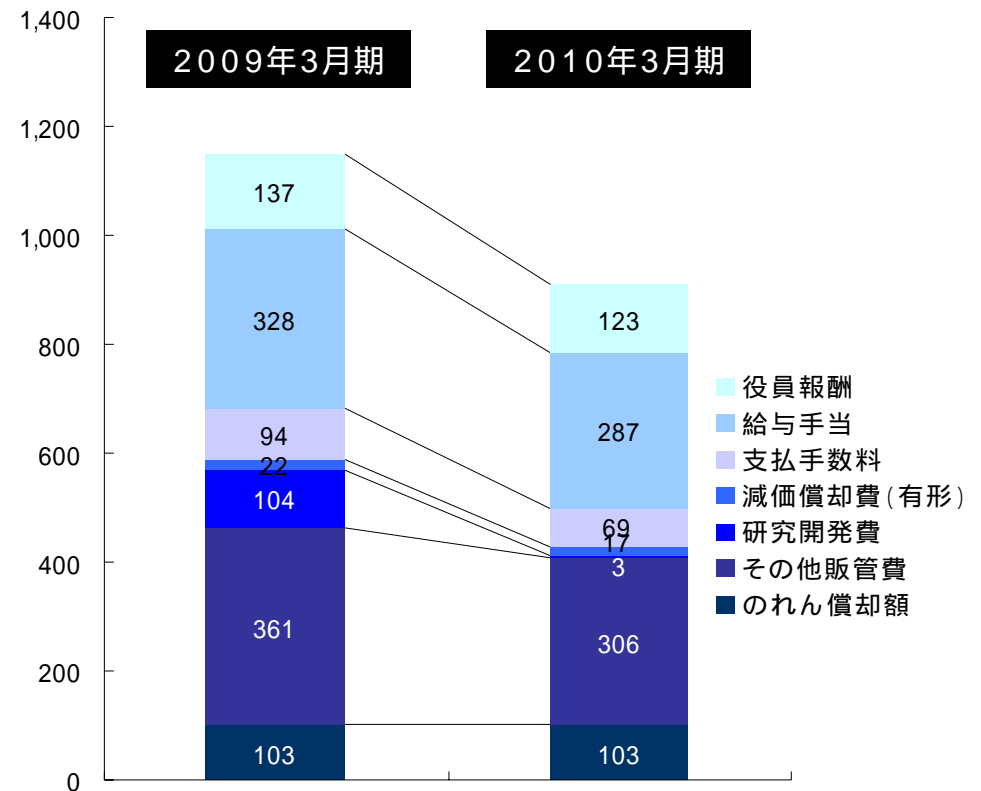
240(百万円)の削減を達成（前期比：20.8%）

**営業利益**：販管費削減を実施したものの、前期比476(百万円)減少

単位:百万円	2009年 3月期	2010年 3月期	前期比
売上高	6,055	4,347	1,707
売上総利益	1,195	477	717
<b>販管費</b>	<b>1,152</b>	<b>911</b>	<b>240</b>
<b>営業利益</b>	<b>42</b>	<b>433</b>	<b>476</b>
営業外収益	32	8	23
営業外費用	27	72	44
経常利益	47	497	544
特別利益	89	7	81
特別損失	268	353	85
当期純利益 [税前]	131	842	710

単位:百万円

## 販売費および管理費内訳 推移



## 経常利益・当期純利益 (連結)



営業外損益・特別損益 : 事業環境の悪化、業績改善を目的とした本店移転等により、営業外費用および特別損失を計上

経常利益・当期純利益 : 営業外費用および特別損失により、大幅な減益

単位:百万円      2009年 2010年  
3月期      3月期      前期比

売上高	6,055	4,347	1,707
売上総利益	1,195	477	717
販管費	1,152	911	240
営業利益	42	433	476
営業外収益	32	8	23
営業外費用	27	72	44
経常利益	47	497	544
特別利益	89	7	81
特別損失	268	353	85
当期純利益 [税前]	131	842	710

営業外費用(連結) - 主な要因 -

・社債の引当金等 : 72 (百万円)

特別損失(連結) - 主な要因 -

・ソフトウェアの評価損 : 225 (百万円)

・本店移転に伴う費用 : 104 (百万円)

・有価証券評価損 : 15 (百万円)

・その他固定資産等の除却損 : 5 (百万円)

### 3. 2011年3月期 業績予想

---

## 2011年3月期 業績予想 (連結)



単位:百万円	第2四半期			通期		
	2010年 3月期実績	2011年 3月期予想	前年同期比	2010年 3月期実績	2011年 3月期予想	前年同期比
売上高	2,122	2,200	(3.6%)	4,347	5,500	(26.5%)
営業利益	235	180	( - )	433	150	( - )
経常利益	246	190	( - )	497	130	( - )
当期純利益	364	200	( - )	873	80	( - )

## 2011年3月期 業績予想 (個別)






単位:百万円	第2四半期			通期		
	2010年 3月期実績	2011年 3月期予想	前年同期比	2010年 3月期実績	2011年 3月期予想	前年同期比
売上高	194	500	(157.7%)	548	1,000	(82.4%)
営業利益	126	0	( - )	191	5	( - )
経常利益	104	5	( - )	188	12	( - )
当期純利益	123	5	( - )	289	12	( - )

## 4. 2011年3月期の取り組みについて

---

# 2011年3月期の取り組み（概要）

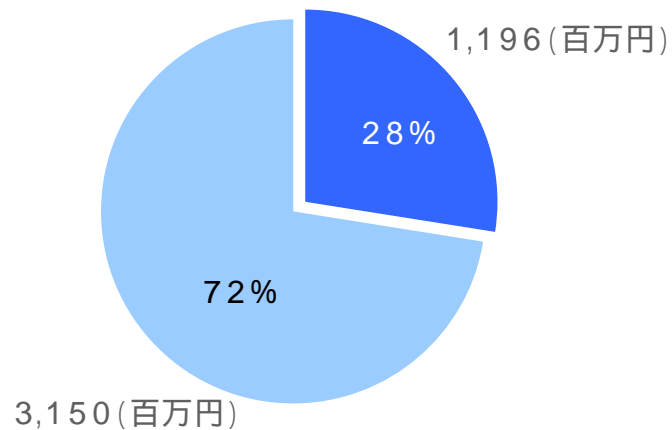
PL	施策	
売上高		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 施策1: SBIグループからの受託開発の増加</li> <li>✓ 施策2: クロスセリングの促進</li> <li>✓ 施策3: 特徴あるサービスの提供 (グループ各社との連携による新しい外国株サービスの提供等)</li> <li>✓ 施策4: 大規模開発への対応とより多くの大型案件受注体制の確立</li> </ul>
売上原価		
売上総利益		
販管費		営業利益

## SBIグループからの受注増加

- SBIグループ取引会社数 (2010年3月期実績)

8社 13社 (前年比: +5社)

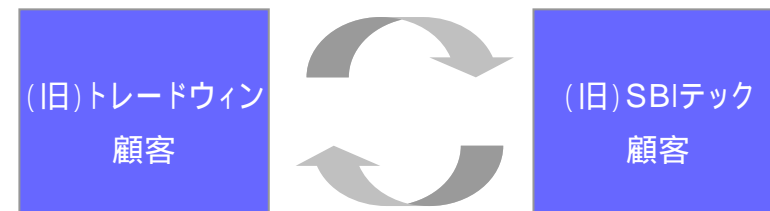
- SBIグループ売上比率 (2010年3月期実績)



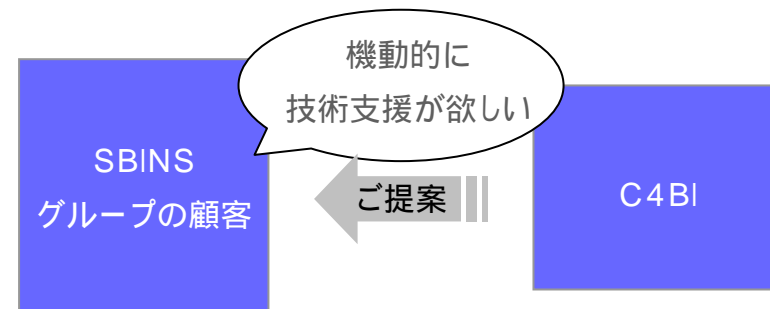
2010年4月:SBIグループ担当営業チームを発足

## クロスセリングの促進

- 合併シナジー効果の促進(SBIトレードウィンテック)



- 小型案件(人材派遣)の積み上げ



2010年4月:SBINSグループ営業部門を統合

## 課題

### ● システム開発フェーズ

#### ✓ パートナー企業への外注

受託開発にパートナー企業を活用することにより、プロジェクトの利益率を圧迫

### ● システム運用・保守フェーズ

#### ✓ パートナー企業への外注

利益率の高い受託開発後の運用業務の一部をパートナー企業へ委託

#### ✓ システムトラブル対応

受託開発後のシステムトラブル(バグ修正等)対応により、追加コストの発生

## 取り組み

#### ✓ オフショア開発による開発コスト削減

中国(大連)のSBIトレードウィンテック子会社を積極活用

#### ✓ 高い利益率の運用業務の内製化

SBIテクノロジーにおいて運用・監視チーム(24H365D)を発足

#### ✓ 品質向上による追加コストの抑制

SBIトレードウィンテックにおいてシステムトラブルゼロ委員会の発足

## 2010年3月期(実績) 販管費

## 取り組み

単位:百万円



- 役員報酬
- 給与手当
- 支払手数料
- 減価償却費(有形)
- 研究開発費
- その他販管費
- のれん償却額

管理部門・営業部門の更なる業務効率化

事業の選択と集中の促進(研究開発費)

六本木オフィスを市ヶ谷オフィスへ統合

前期比: 240(百万円)削減の実績

本資料に掲載された見通しなどは、資料作成時点で入手可能な情報に基づく弊社の判断及び予想であり、今後の要因の変化により、実際の業績や結果が現在の判断及び予想とは大きく異なる可能性があることをご了承ください。

本資料における数値は全て単位以下を切り捨て表示しています。そのため、各項目の和と合計が一致しない場合がありますのでご注意ください。